

「心理臨床科学」の創刊にあたって

心理学研究科長
心理臨床センター長 鈴木直人

同志社大学の心理学研究室は84年という本邦では有数の伝統を誇っています。その後、若干の紆余曲折はありましたが、2009年に心理学部及び心理学研究科に改組され、現在に至っています。この80年を超す歴史の中で同志社心理学に脈々と受け継がれてきたものは、物事を一面的にとらえるのではなく、広い視野を持って、客観的にとらえることのできる実証的態度をもった人物の育成です。本学の心理学部が他の大学の心理学部と違う点は、基礎心理学のカリキュラム、応用心理学のカリキュラムがバランスよく履修できること、またバランスよく履修しなければ卒業できないことです。応用を主たる業務とするものは常に基礎の知見に目を向け、基礎の研究を行うものは常に応用に心を置くことのできる、バランスのとれた研究者、実践家の輩出、これは変わることはない同志社心理学の理念です。こうした理念を持つ本学が、今年、大学院に2つのコースを設けました。一つは従来からの心理学コース、もう一つは臨床心理学コースです。この臨床心理学コースで養成したい心理・臨床家も、実証的かつ科学的な見方に基づいたアセスメント、治療、療法を行うことのできる実践家です。ある実践家の思い込みに基づいた根拠のない（民間）療法やあるクライアントにしか通用しない療法、そのセラピストしかできない療法といったものに終わるのではなく、クライアントへの介入が真にどのような効果を持つのか、そしてその介入技法の基礎的なベースがどのように保証されるのかなど、実証的にあるいは基礎心理学の知見から検証し、その技法を確かなものにしていくことが重要です。そのために創刊された「心理臨床科学」の果たす役割は非常に大きなものがあります。この雑誌が、単に一大学の紀要に終わるのではなく、心理臨床の世界から注目され、かつその世界に大きな変革をもたらすものとなることを願っています。